

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

№124

令和5年3月3日
大牟田市Iネットスクール
担当者通信

SDGs 「ユネスコスクールの日」にちなんで様々な取組が実施されました。

ユネスコスクール・ESD/SDGs 子どもサミット

本年度は1月14日に実施され、倉永小、羽山台小、天の原小、甘木中の4校が、代表の児童生徒による実践発表を行いました。

倉永小は「防災」、天の原小は「海と陸とのつながり」、羽山台小は「故郷を知る」、甘木中は「環境の視点からのまちづくり」と、各学校のESDのブランディングがよく伝わる発表でした。また、奈良教育大学の及川幸彦先生からは、「どの学校も持続可能な未来につながる価値のある実践をしている。」と高い評価をいただきました。



有明海の恵みについて発表する天の原小の児童



「防災は日頃から」と訴える倉永小の児童



「たくさんの人にふるさとのことを伝えたい」と答える羽山台小の児童



「アップサイクル」による持続可能なまちづくりを提案する甘木中の生徒

特色ある実践事例の紹介

いのちを守る「防災・減災学習」 宅峰中学校

本校では、全学年で「防災・減災学習」に取り組んでいます。1年では、地域のハザードマップ作成や応急処置、避難所開設実動訓練などテーマ別学習を行いました。2年では、防災・減災意識を高めるために、神戸市の「人と防災未来センター」での学習や家庭科「災害に備える住生活・食生活」での非常食作りを行いました。3年では、救命救急講習を通して、いのちを守るために必要な知識・技能を習得することができました。このように、災害に向けた事前の準備を行うことで、災害に強い地域づくりも目指しています。



避難所開設実動訓練を行う生徒達

自分達が住みたくなる大牟田市へ 松原中学校

松原中学校は、人と人、人と地域社会、過去・現在と未来とのつながりを理解し、自分との関わりを深め、これからの持続可能な社会を拓く姿勢を身につけた生徒の育成を目標としています。そのために①高齢者福祉に関する学習、②地域の課題を解決する学習、③これからの自分像を考える学習を実施しています。2年生では、大牟田市を「これからも自分達が住みたい町」にするために、世界遺産文化財、観光・まちづくり、伝統工芸・文化について調べ、大牟田市のよさを載せたリーフレットを作成しました。さらに、修学旅行で訪れた京都との比較を通して、これからの大牟田市の活性化に向けた課題について考え、レポートにまとめていきました。



世界文化遺産についての講話